

九国プレ2011

国語

九州国際大学附属中学校

【注意事項】

- 1 開始合図のチャイムが鳴るまで、この問題用紙の中を見てはいけません。
- 2 開始合図のチャイムが鳴ったら、最初に解答用紙と問題用紙に受験番号・氏名を書きなさい。
- 3 試験時間は50分です。
- 4 解答はすべて、指示にしたがって解答用紙に記入しなさい。
- 5 問題用紙で、印刷がはっきりしないところがあったら、静かに手をあげなさい。
- 6 答案ができあがっても、終了合図のチャイムが鳴るまで静かに着席していなさい。

字数制限のある問題については、句読点なども一字とします。

受験 番号		氏 名	
----------	--	--------	--

□ 次の文章をよく読んで、あとの問いに答えなさい。

「コロンプスの卵」というよく知られた逸話がある。
その人にまつわる話

アメリカ①タイリクを「発見」したコロンプスが帰国した後に開かれたお②イワの席でのこと。だれかが「西へ航海すれば、誰だつてアメリカにたどりつくだろう」と皮肉を述べた。これを聞いたコロンプスは、「だれかこの卵をテーブルに立てられる人はいますか」と同席する人びとに問いかけた。その席にいあわせた人びとがチャレンジするものの、だれも卵を立てられない。どんなにバランスをとろうとしても、卵は立たずに転がってしまう。だれも③この問題を解けないことを④ミトドけて、最後にコロンプスは自ら卵を手にとった。人びとは、コロンプスがいったいどうやって卵を立てるなんて難問を解いてみせるのか、⑤固唾をのんだだろう。

コロンプスは、テーブルで卵のお尻をたたいた。まるみを⑥オびていた卵の殻は割れ、そのままテーブルのうえに立った。

これを見た人は、「あ！」と思ったにちがいない。 **A**、コロンプスが示した「答え」を見て、たしかにそうすれば卵が立つことがただちにわかったからだ。 *****、と感じた人もいたかもしれない。だれも卵を割ってよいとは言つてなかつたではないか、と。 **B**、コロンプスは卵を割ってはいけなくと禁止してはいなかった。

この逸話は、どんな難問も、人が解いて見せたあとではやさしいものに見えるということ、 **C** 解答が示されたあとではなんてことのない問題に、自分の頭で答えを出すことの難しさを示した話だ。

「卵を割らずにそのままに」という問題として受け取ってしまった人には、そう受け取った⑦ジンですすでにそれは解けない問題として⑧たちあらわれていた。この問題を解くには、そういう思い込みをやめて、卵を割ることもまた可能性のひとつとして考慮する必要がある。

ここでコロンプスがやってみせたことは、まさに問題のつくりかえだ。
口に出して言わないこと。

コロンプスの問いかけにたいして④卵を立てられなかった人びとは、誰から頼まれたわけでもないのに自分から暗黙のうちに「卵をそのままに」と考えていた。私たちはしばしば、自分の思い込みのために卵を立てられなかった人びとと同じように、誰に言われたわけでもないのに自分の思い込みでドツボにはまるということがある。

いま自分がかまっている問題、出口なしの問題、解決の方法が見当たらないように思える問題には、ほんとうに解決の糸口はないのだろうか。
手がかり。

ちやうどコロンプスがそうしたように、問題の前提について自分が思い込みにとらわれていないかどうかを見直し、問題を問題にしている条件をとらえなおしてみたら、どうしても解けないと思っていた問題が解けるということがある。

つまり、ある問題が自分にむかつてたちあらわれてくるそのあり方をつくりかえること。これもまた、問題とつきあう方法の一つである。

(山本貴光／吉川浩満『問題がモンダイなのだ』より)

問一 ㉑㉒㉓㉔㉕のカタカナを漢字に直しなさい。

問二

A

C

 に当てはまる最も適当な言葉を次からそれぞれ選び、記号で答えなさい。

- ア たとえば イ しかし ウ なぜなら エ まず オ つまり

問三 ①「この問題」とありますが、

(1) どのような問題ですか。次の文の空らんにあてはまる言葉を、本文中から五字で書きぬきなさい。

--

 という問題。

(2) コロンブスが(1)のようなことをしたのは、どのようなことを示すためですか。その答えにあたる部分を本文中から三十四字で探し、始めと終わりの五字を書きぬきなさい。(句読点も一字に数えます。)

問四 ②「固唾をのんだらう」とありますが、「固唾」の「唾」とは、「だ液、つば」のことです。「固唾をのむ」は、本文中ではどのような意味で使

われていますか。最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

- ア 緊張して見守る イ ふしぎそうに見つめる ウ 怒ってにらみつける エ 苦しそうに息をする

問五

*

 には、人の気持ちを表す言葉が入ります。最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

- ア じつはわかっていたぞ イ なるほどそうか ウ それはまちがいだ エ そんなのはずるい

問六 ③「たちあらわれていた」は述語ですが、対応する主語は何ですか。最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

- ア 卵を割らずにそのままに イ 人には ウ それは エ 問題として

問七 ④「卵を立てられなかった人びと」とありますが、

(1) 「人びと」が「卵を立てられなかった」のはなぜですか。その理由を本文中の言葉を使って二十五字以内で答えなさい。

(2) 「卵が立てられなかった人びと」が卵をたてられるようになるには、どのようなことをすればよいと筆者は言っていますか。次の文の空らんにあてはまる言葉を、**あ**は四字、**い**は二字で本文中から書きぬきなさい。

問題の前提についての**あ**をやめて、問題の**い**をとらえなおすこと。

問八 本文の内容として合っているものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア コロンブスは「コロンブスの卵」という考え方を発見し、たたえられた人物であった。
- イ コロンブスは、人びとが思い込みにおちいるように仕向けるのがうまい人物であった。
- ウ 筆者は本文の中で、解けなさそうな難しい問題を解決するための一つの方法を示している。
- エ 筆者は本文の中で、どんな難問でもしっかり考えることで簡単なものとなるといっている。

② 次の文章をよく読んで、あとの問いに答えなさい。

「アツシ」は視力が弱く、明日から手術を受けるため入院することが決まっていた。兄である「少年」は、「アツシ」に、海に連れて行ってほしいと言われたが、かなり遠いため、海の見える商工会館へと向かうことにした。

手術が成功すれば、視力はだいぶ上がる。いまほど分厚いメガネをかけずにすむし、ものがゆがんで見えるのも③治る。でも、もしも失敗してしまうと——父も母も、そのことはなにも話さない。だから、少年も訊けない。

「アツくん」前を向いたまま、声をかけた。「なんで海に行きたいんだよ」

「なんとなく……」

「だって、おまえ、海なんかべつに好きじゃないだろ」

「でも……わかんないけど、なんとなく……」

「明日入院するから？」

少年の声は、かすかに震えた。アツシの返事がなかったので、ハンドルを強く握りしめた。胸がつかえて、どきどきする。胸の中には、まだ訊きたいことが残っている。

目の手術をするから？ 手術に失敗するかもしれないから？ もしも失敗したら目がどうなるのか、アツくん、知ってるの——？

道は上り坂になった。二人乗りで漕ぐのはもう無理だ。少年は胸をつつかえさせたまま、自転車から降りた。アツシも④荷台から降りようとしたが、「①いいよ、おまえは乗ってて」と振り向かずと言って、自転車を押していく。

(中略)

入院は二週間の予定だった。目の中にメスを入れるというのに、と短い。そんなに難しい手術ではないのかもしれない。でも、もしも、もしも……と考えると、②「もしも」の向こう側にあるものがどんどん近づいてくる気がする。怖い。だったらなにも考えなければいいのに、勝手に考えてしまう。両親に③文句を言いたい。もっと早く手術を受けさせていれば、少年も幼すぎて「もしも」のことは考えずにすんでいたのに。

商工会館の建物が見えた。あと少し。少年は息を詰め、歯を食いしばって、自転車を押していく。汗が目には滲みる。拭き取りたくても、ハンドルを片手で支えるのは無理だ。目がチカチカして痛い。汗と涙がにじんだ目に映る風景は、揺れながらゆがんでいた。

日曜日の商工会館は玄関に鍵が掛かっていた。少年はあきらめきれずに玄関のガラスドアを押したり引いたりしたが、アツシはさばさばした様子で「おにいちゃん」と二人乗りしたから、面白かったから、もういいよ」と笑った。

「だめだよ、そんなの」

開いている出入り口がどこかにあるかもしれない。たまにはそういうことで「もしも」を使いたかった。

「勝手に入ったら怒られちゃうよ……」と逃げ腰の③アツシの手を引いて建物の裏に回ると、非常階段があった。落ちないように柵のついた、らせん階段だった。

よし、と少年はうなずいた。④方角も海のほうを向いている。いいぞ、と頬がゆるんだ。④「もしも」が当たった。めったに当たらないから「もしも」なのだから、もう一つの「もしも」は、これでもうはずれる——と、いい。

階段を上った。転んだときのためにアツシの後ろに回った少年は、「手すり、ちゃんと持ってるか」と何度も声をかけた。階段の段差はけっこうあって、まだ小さなアツシは、一段ずつ踏ん張らないと上れない。でも、それがかえってよかったのか、アツシは一度もけつまずくことなく、よいしょ、よいしょ、と上っていった。

三階から四階に上る途中で、まわりの⑤建物の高さを超えて、視界が開けた。
「アツくん、海、あっちだから」

少年が指差す方向に目をやったアツシは、⑤途方に暮れた顔で「どこお……？」と訊いた。
「もっと先だよ、ずーっと先のほう」

見えるのだ。ビルや家の建ち並ぶ街を越えたと先、空よりも微妙にまぶしい、コンタクトレンズのような形の入り江が小さく見える。間違いない。あれは海だ。

檻の鉄格子をつかむ動物園のゴリラみたいに、アツシはしばらく黙って柵に顔を張りつかせた。

カウントダウンは十。少年はそう決めた。十数えても海を見つけられなかったら、もつと上まで行けばいい。このビルは六階建てだから、どこかで海を見つけれられる。絶対にだいじょうぶ。自分に言い聞かせて、いーち、にーい、と数えはじめて……なな、で終わった。

「わかった！ 見えた！」

⑥アツシの歓声が、鉄の階段にキンと響いた。

二人はしばらく黙って、街と、空と、海を眺めた。ときどき顔を見合わせて、アツシはうれしそうに、少年は照れくさそうに、笑った。アツシのほうに階段の上の段にいるので二人の顔の高さはほとんど同じで、正面から見るとときにはアツシのメガネの渦もそれほど目立たないんだな、と少年は気づいた。

「夏休みになったら、ほんとに海に行こう」

少年が言うと、アツシは「泳げる？」と訊いた。

「泳げるし、お母さんに水中メガネ買ってもらって、もぐって遊ぼう」

「お魚、見える？」

少年は息をすうと吸い込んで、「アツくんの目が良くなったら、見えるよ」と言った。「だから見えるんだよ、絶対、百パーセント」
「……ほんと？」

「信じるよ、ばーか。文句言ったら置いて帰るぞ」

⑦胸につつかえていたものが、とれた。アツシもなんだかほっとしたように、えへへつ、と笑った。

問一 ㉠㉡の漢字の読みをひらがなで答えなさい。

問二 には「思いのほか」「予想とちがって」という意味の二字の熟語が入ります。考えて答えなさい。

問三 ①「いいよ、おまえは乗ってて」や、③「アツシの手を引いて」などの表現からわかるように、少年はアツシに対して優しく気づかっていることがわかります。このようにアツシを心配し、気づかう気持ちがよく表れた少年の行動をえがいた一文を、③よりあとの文章から探し、始めの五字を書きぬきなさい。

問四 ②「『もしも』の向こう側にあるもの」とありますが、少年は具体的にはどんなことを想像しているでしょうか。考えて答えなさい。

問五 ④「『もしも』が当たった」とありますが、それはどんなことですか。次の文の空らんにはまる言葉を、本文中から九字で書きぬきなさい。
があるかもしれないということ。

問六 ⑤「途方に暮れた顔」の「途方に暮れる」という言葉を使って、読めば内容や様子がよくわかるように工夫して、短い文を作りなさい。なお、「途方に暮れる」または「途方に暮れた」という形で使うこと。

問七 ⑥「アツシの歓声が、鉄の階段にキンと響いた」とありますが、このとき、なぜアツシは「キンと響く」ほどの声を出したと考えられますか。最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 自分の目でも海が確認できてうれしかったから。

イ 海が本当に見えるとは思わず、びっくりしたから。

ウ 声で「少年」をおどるかそうと思っていたから。

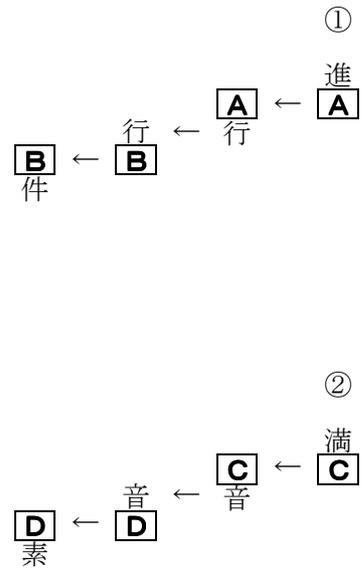
エ 大きな声でないと「少年」に聞こえないと思ったから。

問八 ⑦「胸につつかえていたものが、とれた」とありますが、このときの少年の気持ちを説明した次の文の空らんにあてはまる言葉を、・は二字、は三字で本文中から書きぬきなさい。また、はひらがなで四字、は漢字で二字の言葉を、それぞれ考えて書きなさい。

アツシのがするかどうかかわからず、なかなかその話題にふれることもできずにいたが、「絶対ようになる」と、やっとアツシにの言葉かけることができ、またに対するをほらいのけ、を信じることもできた。

☐ 以下の各問いに答えなさい。

問一 それぞれの☐に漢字を一字入れて、熟語のしりとりを完成させなさい。



問二 次の慣用句の――線部の言葉は、それぞれのどのような意味で使われていますか。あとの語群から最も適当なものを選び、記号で答えなさい。

① 凶に乗る

② 耳が早い

③ 腕をみがく

【語群】ア 情報 イ 関係 ウ 技術 エ 調子 オ 方法

問三 次の☐に、一から十までの漢数字を入れて、ことわざを完成させなさい。

① 早起きは☐文の徳

② 桃栗三年柿☐年

③ ☐階から目薬